

玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）地域説明会  
（玉中学校区） 会議録（概要）

■日 時 令和 6 年 10 月 24 日（木） 19:00～21:30

■場 所 すこやかセンター

■出席者 柴田市長、多田教育長、小崎次長、琵琶教育総務課長、的場学校教育課長、清山教育総務課参事

■参加者 51 名（保護者 34 名、地域 17 名）

1 開会

市長あいさつ、教育長あいさつ

2 説明

「玉野市立小中学校適正規模・適正配置計画（素案）」の内容のうち、玉中学校区に該当する部分を資料に沿って説明。

3 意見交換 ※会議録にある指定校変更の締切りは 11 月 8 日から 12 月 27 日に延長しています。

参加者 1：決定するのは 3 月ということですけど、統合時期が変更になるかどうか分からない。3 年後に玉中が宇野中になるとは分からないということですね。決定ではないなかで、子どもをどこに行かせるかと。

うちは今小学校 6 年生ですが、来年宇野中に行かせるか玉中に行かせるか悩んでいます。決定ではないなかで、「11 月 8 日までに出してください」という締切があるのはいかがなものかと思います。

決定であれば家族間で話も出来る、玉中無くなるから宇野中に行くかという話ができるかと思うんですが、決定ではないなかで話はできないと思います。もしも、統合する時期がずれるとなったときに、「じゃあ、来年から宇野中に行きました」となっても、3 年になったときに、「結局、宇野中に行かなくてもよかったじゃないか」ということになりますよね。今、小学校 6 年生なので、中 3 になったときに変わるっていうのは大事な時期なんですよ。それを延期しましたと途中でなったとしたら、大問題だなと思います。

なので、11 月 8 日という期限がおかしいかなと思います。決まるのが 3 月であれば期限も 3 月でいいのではないのでしょうか。もしも、それが出来ないのであれば特例か何かもうけて、「3 月にこうなりました。みなさんどうしますか」というふうにみんなに聞かなければいけないと思う。統合が決まってから、みんな宇野中とか玉中とか決めると思うので、それがもしも変更になるのであれば、みんなに再確認したほうがいいと思います。

事務局：指定校変更の締切が 11 月 8 日というところで、まだ決まっていない段階で決定しなければいけない。もし、3 月に計画通りにいったらというところで、特に小学 6 年生の保護者のみなさま、小学校 6 年生の児童の方には特に苦しい選択、どうするかと悩まれていると思います。

そういうなかで「中学 3 年になって変わるのであれば」と指定校変更を考えられたりする方もいると思います。決定していない段階で決定をし、そのあとの変更がきかないということで、本当に難しさというか、気持ちはよくわかります。

ただ、なぜ 11 月 8 日の締切なのかというと、新年度の準備をする段階で学級編成であったり就学の手続き等あり、適正規模以外の指定校変更が 9 月 30 日としています。そうはいつでも、適正規模化の動きの中で、やはり慎重に考え、説明会を聞いて、詳しいことがわかって判断される、そういった時間も必要だろうと 11 月 8 日にさせてもらってます。3 月の段階で変更するとなりますと、準備等で難しい。そういう状況で 11 月 8

日を締切としています。

今回の適正規模化の動きを受けての指定校変更については、決定はしていないけれど、こういった動きがあるなかで、希望があるのであれば考慮して許可をするというふうに考えています。

学級編成、就学の準備ということを申し上げましたが、さらに教員の配置ということもあっての難しいということです。

参加者 2 : すごく期間が短くて、決める時間がないからここですと言われたのですが、そもそも計画で普通、素案を出されて修正案を出して、パブコメを出して、意見をもらって、結果が出て、1 年くらいかけてその先で動くというのが通常の流れだと思うのですが、それをかなり詰めている。

さきほど人口の話もされましたが、よく承知しています。少子化で子どもの数も減っている。統廃合が進む可能性もよくわかっているのですが、1 年くらいかけても集団が大きく変わるという印象はないと受けたのですが、決まる前にこちらが決めなければいけないというのは腑に落ちないものでした。

素案という言い方として我々が知ったのは 6 月でした。先ほど期間を延長して変更してまいりましたとおっしゃった、それは努力はわかります。ただ、そのことは市民はほとんど知らなくて、我々が知ったのは 6 月です。今決めなさいと言ったのは 11 月です。5 ヶ月で、3 年後受検生になる時のそれを決めなければならぬ。それは親としてはちよつとかなり不満かなというところですよ。

素案が取れるのが 3 月ということですが、私が聞きおよんでいる限りでは、多くの方、今の 6 年生の方は宇野中に行こうかなと思われている。そうすると来年の 3 月時点でこちらに出願する生徒がかなり増える、そういったところの交通的なところなどを、進められるのであれば、しっかりケアしてもらわないと親としては安心できないというところがあるというところですよ。

我々市民としては、変わるかもしれないと言われたら不安です。素案がとれるのであれば、もし今後計画が変更になるのであれば、補正予算を組んでもこの計画を進めていきますくらいの勢いでやっていただかないと。我々市民としては、この市に住んで市長についていこうとは思いません。そのあたりをしっかりと、今後新しく進めるのであれば考えていただきたいと思います。

参加者 3 : やっぱり交通面は心配です。中 1 から中 3 まで体力も違ってきますし、バス継続できるのか、玉野市の財源があるのかも思ってしまうし、道を整備したから大丈夫という考えではなくて、もう少し大きな目でしっかり考えていただけたらうれしいというお願いです。

事務局 : 交通面、通学の安全安心が一番大事なところだと思っています。そこはしっかりと考えたい。地域や保護者の方は危険箇所もよくわかっていると思いますので、我々も一緒になってよく考えて進めていこうと思います。

参加者 4 : 前倒しで宇野中に通わせたいと思っていて、市役所の方に指定の用紙を取りに行かせていただきました。その際に、いろいろ質問させてもらって、最後の最後に、もしかしたらこの素案が変わるかもしれない、申請して決めても、2 年後にもしかしたら玉中があるかもしれないということと言われました。一番最後に迷うことを言われました。そういう不安なことを最後に言われて、じゃあ 11 月 8 日までに必ず決めてくださいねと言われ、帰るときに迷うような気持ちになりました。教育長さんどう思われますか。

教育長 : この適正規模・適正配置の素案につきましては、そういう面で計画決定していないところで指定変更を決定しないといけないという、保護者の不安は重々わかっているつもりです。対応について、不安な気持ちにさせてしまったことは、大変申し訳なく思っております。

ただ、決定ができない状況にもありますので、これについては大変不安を持たれていると思いますが、この日程でいきますとどうしても決定は 3 月末ということになりますので、それについては、どうしてもできないといった状

況です。

参加者 5 : 元々のスケジュールがおかしいですね。自分らのスケジュールの始末をこちらに押しつけてるだけでしょ。強引すぎるんじゃないですかね。それはおかしい。決まっていなのに。もともとどういスケジュールでやろうとして、この 3 月になったんですか。

事務局 : スケジュールにつきましては、適正規模・適正配置検討委員会の答申を受けまして、できるだけ答申に沿う形で進めていきたいと考えまして、スケジュールを決めた 1 つの大きな理由は、小学校の複式学級化前ということで決めさせていただきました。複式学級化前ということで、準備するためには 1 ~ 3 年かかるということで、このようなタイトなスケジュールになっています。

参加者 6 : 小学校の話ですが、私は日比中学校に通っていたのですが、階段も坂もすごく急なんです。なんでそこに変えたのかというのが正直な感想です。その辺りもう少し考えてくれてもいいのではないのか。私の個人的な意見としては、1 学年 2 クラスとか、そういった制限はつけなくてもいいのではと思います。

事務局 : なぜ日比中学校にしたのかといったところですが、確かに急な階段があるのですが、地域の再編にあたり地域の真ん中にあるということで決定させていただいています。また、教室数もしっかり確保できるということも理由になります。

参加者 6 : 質問ではないのですが、日比中学校に 4 校を統合というのはどうかなという話です。私の娘は 1 年生なので歩いて行けるかといったらたぶんいけないかと思います。再考いただけたらと思います。

参加者 7 : 今回こういう話が出たのって、市長が替わったからですか。市長が替わる前には出てないですよ。市長が替わられてこの話が押し通されてる。

市長 : 市長が替わったからというのは必ずそうではありません。私が就任する前から市役所、教育委員会の方でもこの件等については進んでいたかと、スタートは切っていたかということですね。ただ、これをこういうかたちで今説明があったように、子どもの数がどんどん減っている中で、これをそのまま放っておけない。本来であれば、もうちょっと前から検討して時間をかけてやった方が良かったのかもしれない。ただ、もう複式学級が時間の問題、1 学年クラス替えが出来ないところもたくさんあると。中学校の校長先生が私のところに来られ、早くやってくれという要望書があったといっていました。

参加者 7 : 中学校の先生が言ったからこんなタイトなスケジュールでやっているのですか。

市長 : いえ、もちろんそれだけではありません。

参加者 7 : 市長はそんなのする人だとは思ってないじゃないですか。選挙の時はいいこと言って、玉野市のために、発展のために、で市長になったとたんこうやって学校は減ります。僕は玉原に住んでますが、玉原に学校なくなると、正直人がいなくなります。年寄りしかいません。どんどん人口は減るじゃないですか。宇野一極集中、荘内一極集中、すればいいの。

市長 : そういうことを考えているわけではありません。ただ今回の計画は子ども教育環境を一番に考えてやっている。

参加者 7 : 統合したら教育環境は良くなるんですか。

市長 : そこは一定規模が必要だという答申を受けています。

参加者 7 : 一定規模があればどういふうに良くなるんですか。

市長 : そこはいろいろ議論があるところです。

参加者 7 : 議論があるなら、市長が言っている教育環境が良くなるというのはおかしいじゃないですか。教育環境がよくなるからそうしているのに、それに対して議論するなら、話の辻褄が合っていないと思うんですよ。こういったメリットがあるからこの統合をしたいんですというならわかる。だから、それに対してこういう意見を言いたいというのはあ

るけど、そこに対して議論しますでは議論してないのに教育環境はよくなるとざっくりとした話してるじゃないですか。

市長：その部分を検討委員会で検討していただいて、先ほど説明のあった、小学校であれば1学年2学級、中学校であれば3学級が適当だろうという結論をいただいた。それに出来るだけ近づけるという形で今回の素案を作りました。

参加者7：適当というのはなんですか。2学級がいい、3学級がいいというのは何なんですか。何がいいのですか、2学級がいい理由、3学級がいい理由がわかりません。

市長：これについては確かにいろいろな意見があります。小規模がいいと言われる方、複式がいいと言われる方も確かにおられます。

参加者7：寂しい、人がいて欲しい、その気持ちはすごくわかります。僕でもたまに小学校行って、人数いないな、寂しいな、僕の頃はこんなことなかったよな、もっと賑わいがあったよなと思います。

友だち付き合いがうまくいってなくて、もっと人数いて、クラス替えがあると変わるかなという気持ちもある。

でも、一概にダメと決めつけて、2学級〜3学級あったらよくなりますと言うのが僕には、どこにも証明されていないし、何を伝えたいのかわからない。でも、強引に学校は統合しますということはどんどん進んでいるから、市長の独断なんですか。これはどこがやっているんですか。

市長：主体となってやっているのは教育委員会です。ただ、最終的に予算をつけたりとか、人の配置とか、いうところはもちろん

参加者7：じゃあ、市長が玉野市として、「払えん。こんなに学校があって予算がかかる。子どもたちがバラバラいて」

市長：いえ、違います。そういうことやっているわけではありません。適切な教育環境という観点から。

参加者7：適切というのを説明できてないじゃないですか。なぜ適切という説明もできないのに、適切といういい言葉ばかり並べるんですか。

僕は正直感情的になって言っているところはある。でも、子どものことが可愛いんです。ここに来ている親御さんはみんなそうだと思う。子どもの環境を良くしてあげたい。統合になって環境がものすごく良くなるならいいですよ。それは素晴らしいことだと思います。友達が増えた、もっといいことが起きたって。それだったら市長よくやってくれたってなるけど、いい環境にする、適切にするっていても、具体的なもの何一つ出ていないじゃないですか。ただ統合するという事実を述べているだけ。

市長：その部分については検討委員会の方でも学識経験者、それから地域や保護者の方とかも含めて2年近くにわたって検討はされたんです。そこが十分伝わってなかったというのはあるかもしれませんが。それを見据えた上で計画を策定していきたい。

参加者7：じゃあ決定報告会ってことですか。格好上の説明会ということですか。

市長：そういうことではありません。もちろん素案ということで、皆さんの意見を聞きながらいいものにしていく。

参加者7：でも変わらないでしょ。正直。正直、来る気はなかったんです。来ても変わらないし。

市長：そこは検討はしてまいりますけども、まずはみなさんのご意見を聞かせてもらうということでもあります。

参加者7：ご意見聞いて、取り入れてくれるんですか。

市長：それは検討次第ですけども。

参加者7：この検討は誰がするんですか。

市長：それは教育委員会がします。

参加者7：教育委員会が決めるんですか。

市長：それにももちろん私も加わりますけども、ご意見をまずは。

参加者7：市長が教育委員会の人と話をし、どんどん統合していった人が減っていく。

市長：もちろん市議会のみなさんとも協議して話を進めていかなければいけないと。

参加者7：それは市議会の人から聞いたから、市議会の人責任だと。

市長：責任というか、そうですね、それはみなさんで責任はあると思いますが、最終的には私の責任で、提案をして具体的に決まっていくということですね。

参加者7：じゃあもう決まった話。僕らの意見絶対取り入れてもらえないですね。

市長：そういうことではない。ただあまりぶれるといえますか、先ほどもお話ありましたが、変わることがあっても混乱が生まれるということですので、本当に難しいところなんですね。ただそこを全く意見を聞かないということではございません。

参加者7：じゃあ今話をしているのを、市長は聞いてくれているのですか。

市長：もちろん私も聞いています。

参加者7：じゃあその根拠がない話に対して、環境が良くなるという部分に対して、教えてください。どうやったら環境が良くなるのか。統合後良くなる理由、市長が堂々と言われているのだから、それに対して答えて欲しいです。

市長：ご意見ありがとうございます。先ほど言われているように、学習環境がどうよくなるのかということにつきましては、ソフト面の、一定数以上の児童生徒が在籍する学校規模が確保され、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら、一人一人が資質・能力を伸ばしていくことが可能となる、ということができるといことで学習環境が整うというふうに思っています。

それと、ハード面につきましては施設の環境面を充実させることができるような予算管理という考え方があるということとさせていただきます。

あとは、小学校1学年2学級以上とか中学校は3学級以上だとかということですが、これは1年半かけて検討委員会をしていただいて、多くの子どもたちとふれあいが出来るということで多様な考え方に触れるということで、素案では小学校は1学年2学級以上、中学校は1学年3学級以上というかたちで、この素案のほうを作成させていただいているところでございます。

不安になられることもたくさんあるかと思うんですが、教育委員会としては地域説明会でいろいろなご意見いただいています。それについて再度考え直すところも必要かと思ひますし、できるところはしっかり検討していくような形でさせていただきながら、市長も含め検討させていただきたいと思っています。

参加者7：玉野市の教育委員会と検討してはいますけど、一度話をさせてもらったことがあるんですよ。これは制服の時。詰め襟からLGBTの観点からブレザーにします。ブレザーになったら高くなるよと、LGBTの観点から子ども主観であれば、僕はブレザーじゃなくて私服だと思ふよ、と。何一つ取り入れてくれなかった。ブレザーにするという選択肢を増やしてあげるのはいいけど、今の制服を好きで着ている子、お下がり着ている子、お金がなくてネットで安く買っている子、そういった家庭だってあるのに、そういった家庭をないがしろにして制服を高くしていくんですかという話をさせてもらったんですよ。宇野中学校なんか指定のポロシャツですよ。僕ら宇野中学校に行くとなったら、高いポロシャツを買わなければいけない。玉中学校は指定なんかない。

事務局：再編後の制服については、新しいものを全てそろえるということは考えていません。今の既存の制服を使いたいということであればそれでもかまいません。兄弟関係、お下がりを使いたいといった家庭もあるかと思ひますので、そういったところも柔軟に対応させていただきたいと考えております。

参加者8：学校は学業と地域との共生の元、助け合い、協働生活、大切さを学ぶ場でもあります。学校の行事、運

動会、文化祭、あいさつ運動、地域行事への参加や関わりあつての学校生活があつたと思います。今回、学校の統廃合での学校との関わりが薄れていくことにより、今日以上、人口も減少し、町は廃れていくのでは無いかと心配しております。人口が増加するか減少するか統計を取り、市民に安心するものを市民に知らせて欲しい。

参加者 9：意見です。国は、統廃合するときには、必ず地域、保護者、子どもたちの同意がないと進めてはいけないうっています。教育委員会や市当局は、合意というのはどういったものだと思っておりますか。合意というのはお互いに話し合つていいところを見つけるというのが合意であつて、何を言つても計画はこうですから、これは多様性が必要ですから、切磋琢磨が必要ですから、と言われますが、それは合意形成になっているのでしょうか。もしかしたら、各地域でこういう説明会したよ、パブリックコメントとつたよ、だから合意は形成されたよねと言われるんじゃないかと思つて、そこのとこが不安で仕方ありません。

それから、2年にわたつて検討委員会の方が一緒に考えてくださいましたが、こんな大変なことを決めるのに、あの人数の検討委員会で果たしてよかつたのかなと思つています。

検討委員会でしっかり話し合つてくださつて、答申が出ました。

ところが、こんなに早くことが起こつていくのは、答申には書いてありませんでした。答申に沿つてと言われてましたが、答申とは違つております。それで上が決めたことは守りなさいみたいな感じがさつきからずっと見えていて、委員会の考えをただただ私たち市民に押しつけて、納得させようという会なのかな、そういう方針で行かれるのかなと思つて、とても不安です。

教育委員会が言われる大人数の良さも私はわかりました。40年教員をしていて大きいところも行ったし小さいところも行ったので大きい学校の良さもわかります。小さい学校の良さもわかります。大きい学校で子どもたちが少なかったら、もつとしてやれたのということもありますし、小さい学校で人数多かつたらもつてきたよなということもあります。

でも、小さい子どもたちにあの距離を歩かせてまで教育委員会の方が言われている大人数の良さを欲しいとは思えないです。

お願いは、どうかこの問題はもつとゆっくり考えて、各地域ごとに、小中学校別ごとにもう一度素案を作り直して欲しいと思つています。地域ごと、小中学校別にもう一度素案を出してください。それが私のお願いと意見です。

参加者 10：玉小はずつと 10人で推移します、それが統合したら 30人になつて大規模の良さを味わえますよと言われてましたが、10人と 30人の集団の中での違いを具体的に説明してほしいのに、それがなかつた。高梁の教育委員会は 3人対 3人のグループができなくなつたら統合になることを考えないといけないう聞いています。つまり 2人では集団にはならない。先ほどの市長さんとのやりとり、1対 1でやっていますから、私とあなたとの意見の交換です。ところが 3人になるとそうじゃない。たとえば僕が 3人目として意見に参加出来ます。その 3人の集団が二つある。そういうクラスで子どもたちを教育して行きたい、と明確に具体的に言っているんですね。だから、10人と 20人の違い、10人と 35人の違いを教えて欲しいと思つています。その良さがどれくらいのものかわかりませんが、

大変なときにはスクールバスの運用を考えていますと答えられたのですが、事前に質問した報告でいくと、赤松市議の議会報告の内容、玉野の子どもたちはどこに住んでいても 30分以内に通学できるようになりますという趣旨の文章があつたと思つています、そのへんはどうなんですかと聞きました。そうすると、こう回答がありました。「赤松市議の議会報告の内容は把握していませんが、検討委員会の答申では、玉野市における望ましい通学距離、通学時間として、徒歩通学にする距離の目安は、小学校中学校ともに片道おおむね 2キロ以内、

通学時間はおおむね 30 分程度となるように学校の適正配置が求められています。可能な限り答申に沿った計画にしたいと思いますが、運転手の確保が困難となるため、現実問題として実現は難しいと考えています。つまり 2 キロは実現しないと答えられています。3 キロにした理由としては、国の基準では小学校 4 キロ以内、中学校も 6 キロ以内、通学時間 1 時間とされており、現在もこの基準で実施されていますが、小学生の徒歩通学の基準が 4 キロ以内というのはやや長すぎると考えたため、子どもの体力低下が懸念される中、体力作りの観点から、一定の距離歩くことは必要であると考え、小学校の徒歩通学は原則 3 キロ以内、中学校の徒歩、自転車の通学距離は原則 6 キロ以内とのことです。片道 3 キロを児童が歩く時間は 40 分から 50 分程度を見込んでおります。」というふうに返ってきました。これでいいと思いません。

別件で大学の先生が、玉野市に来てお話をしてくださったそうです。その先生が、玉野市の学校を車で全部回られて、文科省の統廃合の手引きは、玉野市は小規模校で存続する条件に入っていますよというふうにコメントされたそうです。それを教育委員会に言うと、豪雪地帯とか島嶼部でスクールバス等を運行しても危険が回避出来ない場合は小規模校でというふうに書いてあると。ところが玉野市はそういうところに当たっていない。スクールバスを運用するから、というふうに答えられたのですが、玉野市は運用すると言っているのですが、どうしたことかという 3 キロ未満は徒歩ですよという運用なんです。

玉野市は児島半島という入り江に出来た集落が集まっていると考えられますよね。その集落ごとに小学校があります。渋川はありませんけども、半島で入り江から次の入り江を越えるには峠があります。かならず峠越えをしなければいけません。そういう条件の中でスクールバスを 16 台しか確保出来ないのに危険じゃないし安全ですと言われても納得できません。

長くなりましたけど、統合によって先生の数もすごく減りますよね。先生はいらない。子どもたちでわいわいやるほうが教育効果があると言いますけど。4 校 2 2 クラスのときは、玉野市から一切お金を払わない県委の先生は 38 人、1 校 10 クラスになったときは 15 人になります。23 人先生が減ります。生徒の数は変わらないのに。このマイナス面を埋めて有り余る大規模の教育効果というのはどういうものなのかということです。

長くなりますがもう 2 つ。

1 つは学校という職場が、玉中・日比中学区で 6 つあるのに、5 つ無くなるんですよ。10 人生徒の職場かもしれません。市内に雇用を作ろう、雇用を増やそうという運営をやっているのに、この玉と日比地区だけで 5 つ減らすんですよ、職場を。そういう働ける大人と接する子どもはすごくきらきら輝いてる大人と接している。そういう報告は中学校 2 年生のチャレンジワークで感想がいくつも出ていると思うんですけども、そういう場を無くしてしまっている。

もう 1 つ、先ほど地域の方がコミュニティの存続問題を言っていましたが、これも質問したんです。学校を当該地コミュニティの存続や発展の中核的施設と位置づけ、地域をあげてその充実を図ることを希望する場合、統合を選択しなくても良いという一文が入っています。これをどのように考えて教育委員会は進めているのですかという、策定されてから、地域コミュニティの方々には子どもたちのためだからと説得して回りますということでした。それっておかしいですよね。たまたま、僕の同級生が玉コミュニティの会長です。玉コミュニティでは小学校や中学校にかかわる行事にしか行ってないとのことでした。学校がなくなると、ゼロにしてここから何か生み出さないコミュニティに出来ない。そういう実態を案が決まる前にまず教えて欲しいと思うんですが、そういうことをなぜやらないのですかということです。

事務局：適正規模化に伴って、どういった教室、どういったものを目指しているかというところをお話させていただきます。

今、学校教育というのは、これから子どもたちは激動の社会、大きく変化する社会で生き抜く力を身につけ

させる、そういったものが学校教育に求められています。こういった力かという、知識・議論もそうですが、それ以外に思考力・判断力・表現力、自分で学びに向かう力、それから人間性、様々な課題に挑戦したときに自分の力で解決していく、そういった力をこの学校教育の中で身につけさせていく、育成していく、そういったことを目指して教育を進めています。

参加者 10：それはわかっています、10人の時と30人の時と、こんなに違いがありますよというのがないと、10人の学校を30人にする意味がないでしょと言っているんです。

事務局：そういった力を育むために、いろいろな友達と関わる中で、いろいろな価値観や考え方に触れる中で力を身につけていく。なので、何人以上がいいとかそういった話ではなく、いろいろな人と関わる中でさまざまな力をつけていく、育成していく。そのためにはある程度の集団・人数が必要となってきます。

さらにいうと、ある程度の人数の中に、さまざまな友達と関わる中で、自分と気の合う友達、価値観のあう友達、いろいろな人と出会う機会が多くなります。そういう中で自分をしっかり理解してくれる人との巡り会いもありますし、ある程度の人数の中で人間関係を築いていく、人とのコミュニケーションを図っていく、そういった能力を身につけていく、そういうことも先ほど申し上げました「ある程度の人数、他者と関わる中でそういった力がついてくる」と考えています。

今、学びも大きく変わっていて、生徒主体の学び、他者と協働的、それぞれの考えをしっかりとお互いに話し合いながら、そういった学びを今進めています。そういった教育環境の中で、学習で充実させるとなると、ある程度の人数が必要と考えています。

さらに、児童生徒が増えることで、学級数が増えることで1校あたりの教職員の数が増えることになります。教職員の数が増えるということは、教職員の質向上につながる、さらには学級が増える、1学年複数学級が増えることで、クラス替えも可能になるし、クラス替えにより子どもたちの人間関係の構築が必要になるところです。そういうことで、10人と30人の比較というのは難しいのですが、これからの教育を進めるにあたって、ある程度の人数というふうに考えています。

参加者 10：ある程度でぼんやりしてたら、やっぱり児童には伝わらないと思うんです。それから複数となるのが3学年で、それが5年後には消えるんですね。それなのに、危険な通学路を延ばしたんですね。

事務局：今の人数であっても、今は教育が可能ですが、今後、児童数が減るなかで、このタイミングでやらなければならないということで、進めているところです。確かに複数学級になるのは3学年です。本当は全学年で複数学級になるのが望ましいのですが、実際にそうはなりません。

ですが、少なくとも半分の学年で複数学級になるということが非常に大きいことだし、全学年が単学級の時よりも、教員配置が増えます。今の計画の人数でいくと、たとえば県が定めている教員の定数配置の基準で見ると、担任プラス1がつく配置になっています。ということで、全学年で複数学級になっていないけれども、1学年でも複数学級が可能になることで、教育の質や学校の組織体制の充実につながるということになっています。

参加者 11：廃校になった場合の人口の増減について調査してください。一番不安なのは、奥玉地区高齢者45%、ほとんど50%近いです。この人たちが不安がっている人口低減、一番の問題だと思うのですが、統計を出していただきたいと思います。

事務局：廃校になって影響を受けて人口が減ったところについては、なかなか難しいかなと思います。

参加者 11：他府県ではそれを出して、ほとんど減少しています。なので玉野市も出来ないことはないと思うんですけど。奥玉小が無くなって30年以上経っています。それも一つの例になるかもしれませんよね。



参加者 12：人数が減っていく中で統廃合という問題は避けて通れないと思うのですが、環境が変わったり新しい自然環境になれば確実に不登校の子どもたちが増えることを懸念しております。バス通学になれば、起きてちよつとゆっくりしようと思っても、バスがなければいけないということになれば、不登校が増えることに対する配慮を考えていただかなければいけないと思っています。

それから、今、人口減少は避けて通れないですが、総社市の方は誰もが行きたくなる学校作りということで、平成 20 年度後半からやっていて、中国地方で人口増加がトップとなり、不登校の人数も確か半分になっていたかと思います。企業の面とか違うとしても、玉野市は豊かな自然や文化があって、岡山市への通勤圏内であって、地の利を生かして、人が減る減るではなく、これから人を増やす、子どもを増やすというふうな政策をぜひ考えていただきたいです。小規模特任校ということで、小規模学校を生かして学区外からも受け入れるような学校は、県北の方にもありますが、割と今全国的にも注目されているところです。玉野市なんかは、その小規模特任校をやっていけばいい、そして子育てしたい人が来ればいいと思っています。3 キロ超えるのにバス通学に入っていない、イノシシが出る道を歩かせるとしたら、我が子をここで子育てしようとは思わないです。ですからぜひそこは考えていただきたいと思います。

事務局：バス通学の 3 キロについては他の地区の説明会でもかなり言われています。たくさんご意見いただいていますので、そこについては検討していきたいと思っています。

参加者 13：質問と意見ですが、今回の件については国からの目標とかはあったのでしょうか。適正規模というものが全国的に行われているということで、ニュースとか新聞とかいろいろな状況とか事例とか読んだりします。数値的な目標が来ているのか。それとも実際に行われる流れ的なもので来ているのか。本などで事例を見てみると、白紙撤回になった地区もあると書いてありました。

今回の説明会において決定事項の説明、本当多くのことを決めてこられていて、頭が下がる思いですが、まだまだ我々住民・保護者・子どもたちに寄り添えないこともたくさんあると思います。今日も皆さんいわれているように、小学生のこどもに 3 キロ歩かせるなんて、とてもじゃないけど非現実的だと、もっと寄り添ってほしいと思います。今回の説明会にも、多くの人の意見をということで、日にちを制限されたり、意見を言えない人とか、そういった方がいると思うんですけど、全ての人々が納得できるように、回数を増やして欲しいし、会場がせまいなら広げて欲しいし、納得がいくように、子どもたちは未来の宝なのですごく大事に思っていて、それだけ意識を向けているのだからもっとも意識を向けていただきたいと思います。

事務局：国からの目標があるかとの質問ですが、国から目標としてこうしてくださいというのは一切ありません。みなさんも報道等でご存じだと思いますが、子どもの人数減少というのは全国的な問題となっているため、多くの自治体で適正規模化や学校再編が取り組まれているのは事実です。ですが、国のほうから実際こういう数にしてくださいといったものはなく、今回の方針は玉野市の教育委員会として、子どもの学習環境の向上のためにしていることです。

参加者 14：Q & A など見ていると、かなりの部分に準備委員会で決めるということで、再編準備委員会というのは、具体的な準備、開校等を円滑に推進するための組織であるとありますが、メンバーがどのような権限や責任がもたされているのか。そして、準備委員会の決めたことが、再編の関係する学校区域の皆さん保護者、また地域にしてみたら、地域の宝である学校がなくなって、地域の衰退等の質問が先ほどから出ているし、保護者のみなさんの意見もたくさんある中で、責任をもって対応されるそういう組織なのか。

もう 1 つは、どういふふうに出されるのか。これも教育委員会が全て任命していくのか。一番心配なのは、この準備委員会のみなさんが、関係する学校の保護者のみなさん達に全部責任が持てる、持たなきゃいけ

ないということができるのかどうか。出てくる人がいるのですか。選ぶのも大変ですが、引き受けてくれるのも大変だと思っています。

それと、そういう人が選んだときに誰がそれをよろしいと、どこが決めるのか。

Q & Aを見ると、準備委員会で決めますというものが多くて、非常に心配しています。

そういうことで、どのように考えていらっしゃるのかということを伺いたい。それと、さっき生徒主体の学びと言われましたが、子どもの意見というのはどこへ反映されているのですか。準備委員会の中では、子どもの意見というのでも反映されていような準備委員会になるのかなということも、私は本当にこの準備委員会は責任を持ってくれるのかと。あとでどんな問題が起こってもこの準備委員会で決めたことに責任もつのかと。ということが心配なので聞かせていただきたいと、どこまで煮詰められているのか聞かせて欲しいと思います。

事務局：準備委員会のメンバーになる方については、選ぶのは教育委員会ということにはなるのですが、保護者の代表や地域の代表については、どの方がその地区の代表としてふさわしいのかというのは、保護者であれば保護者の方より教えていただきたいと思っています。

いろんなことが準備委員会の負担になるということは承知しています。すぐく責任のあることをお願いすることになるので、みんなで協力していきながら決めていきたいということで、一人に責任を負わずとか、その方に責任を負わずとかそういったことではなく、教育委員会の責任においていろいろな物事を決定して行くのですが、ある程度の意見の集約とか、どういった形がいいかは、その地区ごとに違うとか、その地区に詳しい方に意見を聞かなければいけないということもありますので、そういう形として準備委員会というのは実施させていただいて、地区の方、保護者の方にご協力いただきながら、学校再編に向けて準備はしていきたいと考えています。

この中で子どもの意見については、取り入れられるところはどんどん取り入れていきたいと思っています。他の地域では目指す子ども像ということについて、子どもも参画しながら決めているようですので、参考にさせていただきながら、子どもの意見も取り入れられるところは取り入れていきたいと思っています。

参加者 14：関連しているのですが、たとえばそれぞれの準備委員会で決まってくるよね。それが再編される中学校区の別の準備委員会で決まったことでいろいろな違いが出てくると思うんです。それはそれで認めていうということですか。この学校ではするけどこちらではしない、というアンバランスが準備委員会で出てきても、それは準備委員会の責任ということなんですね。

事務局：一定の基準というのはいける必要があるんで、一定の基準を元にその範囲の中で、地区ごとの事情も考慮しながら決めていってもらうことになるかと思います。

参加者 14：一定の基準と言われましたが、その一定の基準はいつどのように出されるのですか。いつどのように決めて私たちの前に出されるのですか。

事務局：計画策定後に一定の基準というのはい決めていくことになります。たとえば、通学距離について、今いろいろのご意見いただいていますので、これが決定ということではないのですが、今お示しさせていただいていますが、そういったものが一定の基準となるかと思います。

参加者 15：今日これだけの方が来られて、話をされて、なるほどと思うこともたくさんありました。スケジュールの方が先に行って、自分の気持ちが後から付いてくる。という形もありましたし、地域の方は学校がなくなって、玉野はこれからどうなるのかというような声があつてのではないかと、私は思います。皆さん今日はたくさん来られてますが、私は今日の説明会にうかがって、もう少し考えてくれたらいいのでは無いかと思われる方、挙手してもらっていますか。ありがとうございます。というのが今日の説明会の民意でございます。以上です。